St. Luke's International University Repository

育児相談における母親と保健婦の相互作用の分析

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉田, 孝子, 飯田, 澄美子, Yoshida, Takako, Iida, Sumiko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00014827

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

―― 原　著 ――

育児相談における母親と保健婦の相互作用の分析

吉　田　孝　子[1)]、飯　田　澄美子[2)]

要　　旨

本研究の目的は、育児相談での母親と保健婦の相互作用を明らかにすることである。保健所の育児相談に来所した母親20名と相談を担当した保健婦13名、合計20事例を対象に帰納的な因子探索的研究を行った。相談場面の参加観察、相談終了後の母親と保健婦への半構成的インタビューを実施し逐語記録を作成し、分析した。その結果、育児相談での母親と保健婦の相互作用は【母親の求めることを明確化する】【母親に必要なことを明確化する】【ニーズを充足する】局面で構成されていることが明らかになった。【母親の求めることを明確化する】では、保健婦が《引き出す》、母親が《伝える》、保健婦が《捉える》という働きかけが行われていた。【母親に必要なことを明確化する】では、保健婦が《探索する》、母親が《協力する》、保健婦が《判断する》ことを行っていた。【ニーズを充足する】では、保健婦が《提供する》、母親が《得る》という働きかけが行われていた。また、相互作用の局面にはつながりがあり、【母親の求めることを明確化する】で保健婦が母親の求めることを《捉える》ことをし、それをもとに【母親に必要なことを明確化する】の《探索する》に移行していた。【母親に必要なことを明確化する】から【ニーズを充足する】へは、保健婦が母親に必要なことを《判断する》ことをし、その判断をもとに援助を《提供する》に移行していた。育児相談での母親と保健婦の相互作用は、母親の求めることと母親に必要なことを中核として展開されており、保健婦は母親が求めることだけでなく、相互作用を行う中で母親が真に必要としていることを判断しニーズを充足させる働きかけを行っていた。母親は保健婦との関わりの中で、自分の求めることだけでなく必要なことを見いだされ充足されていた。このような関わりあいをもつことが支援的な育児相談につながると考えられた。

キーワーズ
母親　保健婦　育児相談　相互作用　ニーズ

Ⅰ．はじめに

少子化や核家族化の進行、情報の氾濫など、母子を取り巻く環境は著しく変化している。平成９年から基本的母子保健サービスは市町村で実施されるようになり、今後の課題として人的資源の確保や技術水準の維持が挙げられている。その中でも、相談・指導が十分にできるマンパワーの確保や相談・指導の質に着目した評価を行っていくことが必要であると示されている[1) 2)]。

看護面接、相談とは基本的に看護婦と患者の相互作用における言語的コミュニケーションであり、患者と看護婦の相互作用を分析し記述することは、効果的なケアや理論を洗練するために重要である[3) 4)]。また、相談者と来談者は通常１対１の関係でコミュニケーションを行い、そのプロセスを再現し検討することが、相談者の技術・態度を磨き、評価にもつながるといわれている[5)]。

母子保健領域での母親と看護職の相互作用を明らかにした研究には、Katri[6)]が小児ヘルスケアセンターでの母親と保健婦の相互作用をグランデッドセオリー・アプローチを用いて明らかにし、自信をサポートする関係というカテゴリーと相互作用パターンを示している。他には、Webster[7)] Morgan[8)] Imai[9)]らの研究が挙げられるが、いずれも看護以外の領域で開発された枠組みが用いられている。また、わが国の母子保健領域では、母親と保健婦の相互作用を分析した研究はみられない。

以上のような現状から、相談を評価するための枠組みが必要であり、面接・相談の基本である相互作用に焦点を当てた帰納的な研究を行う必要性があると考えた。

Ⅱ．研究目的

本研究の目的は、育児相談での母親と保健婦の相互作

1）大阪府立看護大学
2）聖隷クリストファー看護大学

用を明らかにすることである。

Ⅲ．研究方法

1．研究デザイン

帰納的な因子探索的研究方法を用いた。

2．研究対象

東京都N区の保健所３ケ所で行われた育児相談に来所した母親と相談を担当した保健婦で、本研究の協力に同意を得られた者を対象とした。対象数は、母親20名、保健婦13名で、合計20事例であった。

3．データ収集方法

1997年７月から10月まで、３ケ所の保健所で実施された育児相談で行った。保健婦にはデータ収集開始日までに同意を得ておき、データ収集当日にも再度確認した。母親には育児相談受付時の待ち時間に説明を行い同意を得た。データの収集は、相談場面の参加観察と録音を行い、逐語記録にした。研究者は介入を行わず、可能な限り観察者としての参加者という立場をとり、母親と保健婦の相互作用に影響を与えないように努めた。テープレコーダーは、ぬいぐるみ付きの袋に入れ、オモチャと一緒にテーブルの上に置き、育児相談という場の雰囲気を壊さないよう配慮した。また、相談終了後に母親と保健婦それぞれに対して半構成的なインタビューと録音を行い、逐語記録にした。相談およびインタビューの内容は研究者以外に知られることのないことを保証した。

4．分析方法

相談場面およびインタビュー場面の逐語記録をデータとして分析を行った。相談場面の会話の分析は、ひとつの相談項目やひとつの話題を一場面とし、合計78場面を分析した。分析の方法は、相談場面で発言者がどのような意味を込めて発言しているかという視点で、インタビューでその発言内容について語られている部分と照らし合わせ、会話の文脈から読み取りながらカテゴリー化した。インタビューからは、相互作用に関連する内容のカテゴリーを抽出し、これらのカテゴリー間の関連を合わせて検討した。

データの信頼性と妥当性を高めるために予備調査を行い、観察方法や面接方法について指導を受けた。また、データ収集および分析についても指導者にスーパービジョンを受けた。相談場面での発言の意味については、インタビューでその意味について語られた部分を照らし合わせて確認した。

Ⅳ．結　果

1．研究対象者の特性

母親の年齢は23才から35才で平均年齢は30.4才、子どもの月齢は２ケ月から２才５ケ月、平均月齢が8.1ケ月、第１子が19名、第２子が１名であった。保健婦は経験年数１年から30年で、平均経験年数が15.9年であった。相談時間は８分から36分で、平均21.9分、母親へのインタビュー時間は９分から37分で、平均13.7分、保健婦へのインタビュー時間は7分から35分で、平均17.8分であった。相談内容は、子どもの栄養や発育・発達、育児の方法、母親自身の身体のことなどがあった。

2．分析結果

育児相談での母親と保健婦の相互作用には、【母親の求めることを明確化する】【母親に必要なことを明確化する】【ニーズを充足する】という３つの局面が展開されていた。それぞれのカテゴリーは表１に示す通りである。また、母親は78場面中74場面で保健婦の相談に満足していた。

１）【母親の求めることを明確化する】

これは、母親の求めることを明確化するために、母親と保健婦がお互いに働きかける局面である。保健婦は、母親の求めることを把握し、母親を援助する手がかりを見つけようとする働きかけを行っていた。一方、母親は、

表１　相互作用の局面のカテゴリーおよびサブカテゴリー

局面	カテゴリー	サブカテゴリー
母親の求めることを明確化する	保健婦が、引き出す	尋ねる
		促す
		きっかけを作る
	母親が、伝える	答えを求める
		漠然と求める
		保健婦をみて話す
	保健婦が、捉える	把握する
		読み取る
母親に必要なことを明確化する	保健婦が、探索する	母親をみる
		子どもをみる
		生活をみる
		問題点を探す
		対応策を探す
	母親が、協力する	応答する
		任せる
	保健婦が、判断する	統合する
		見極める
		優先するものを決める
		保健婦の思いを込める
ニーズを充足する	保健婦が、提供する	受け入れる
		支持する
		問題を明らかにする
		方向づける
		児の成長発達を保障する
	母親が、得る	受け取る
		見つけ出す

自分の求めることを得るために、求めることを保健婦に伝えようとする働きかけを行っていた。この局面での働きかけのカテゴリーは、保健婦が母親の求めることを《引き出す》と、母親が求めていることを保健婦に《伝える》であった。また、保健婦が、母親の求めることを《捉える》カテゴリーで構成された。

保健婦が、母親の求めることを《引き出す》とは、保健婦が母親の求めていることを知るために、母親の求めることを引き出そうとする働きかけのカテゴリーである。〈尋ねる〉〈促す〉〈きっかけを作る〉の3つのサブカテゴリーがあった。母親が《伝える》とは、母親が保健婦にどのようなことを聞きたいのか、どのようなことを求めているのかを保健婦にわかってもらおうとする働きかけのカテゴリーである。サブカテゴリーには、〈答えを求める〉〈漠然と求める〉〈保健婦をみて話す〉〈再度求める〉があった。保健婦が《捉える》とは、母親がどのようなことを保健婦に求めているのかを、保健婦が把握するというカテゴリーである。サブカテゴリーは、〈把握する〉〈読み取る〉の2つがあった。

2）【母親に必要なことを明確化する】

これは【母親に必要なことを明確化する】ために、母親と保健婦がお互いに働きかける局面である。この局面では、保健婦は保健婦の視点で母親に必要なことを明らかにするための判断材料を《探索する》ことを行い、母親がそれに《協力する》ことをしていた。そこから、保健婦は、母親に必要なことを《判断する》ことを行っていた。

保健婦が《探索する》とは、この母親にはどのような援助が必要であるのかということを判断するために、判断材料を収集しようとするカテゴリーである。〈母親を見る〉〈子どもをみる〉〈生活をみる〉〈問題点を探す〉〈対応策を探す〉の5つのサブカテゴリーで構成された。母親が《協力する》は、母親が保健婦の《探索する》働きかけに協力するというカテゴリーである。サブカテゴリーには、〈応答する〉〈任せる〉の2つがあった。保健婦が《判断する》とは、母親に必要なことは何かということを、保健婦が援助方針の中に位置づけ、こう援助しようと決めることである。これには、〈統合する〉〈見極める〉〈優先するものを決める〉〈保健婦の思いを込める〉の4つのサブカテゴリーがあった。これらは、実質的には働きかけとして現れたものではなく、保健婦自身の内面に生じていた解釈のカテゴリーであった。

3）【ニーズを充足する】

保健婦が母親に必要だと考えたことを提供する働きかけが行われ、母親にとっては、求めることが充足されるという局面である。保健婦は《提供する》という働きかけを行い、それに対応して、母親は《得る》ことを行っていた。

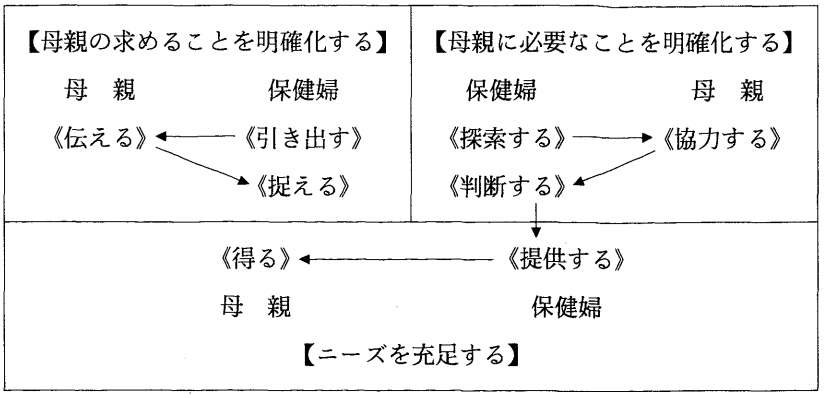

図1　相互作用の3局面の関連

保健婦が《提供する》とは、保健婦が母親の求めることと、母親に必要だと考えたことを提供するというカテゴリーである。〈受け入れる〉〈支持する〉〈問題を明らかにする〉〈方向づける〉〈児の成長発達を保障する〉の5つのサブカテゴリーから構成された。母親が《得る》は、母親が保健婦から提供された援助を受けるというカテゴリーである。〈受け取る〉〈見つけ出す〉の2つのサブカテゴリーで構成された。

4）相互作用の3局面の関連

相互作用の3局面について、図1に示すようなつながりが明らかになった。これらの局面をつなぐものとして、保健婦の《捉える》《判断する》というカテゴリーが機能していた。【母親の求めることを明確化する】局面では保健婦が母親の求めることを《捉える》ことをし、それをもとに【母親に必要なことを明確化する】局面の《探索する》に移行していた。【母親に必要なことを明確化する】局面から【ニーズを充足する】局面へは、保健婦が母親に必要なことを《判断する》ことをし、その判断をもとに、援助を《提供する》に移行していた。

断乳の方法を知りたいという相談例を用いて、相互作用のプロセスを示す。

① 《引き出す》：保健婦は子どもの成長発達が順調であることを説明し、離乳食の進行状況を尋ねる。保健婦は相談終了後のインタビューで「お母さんの聞きたいことは、子どもの栄養や成長発達に関係することが多く、会話するうちに緊張も解けるかなと考えて、最初はこういう話題にしてます」と〈きっかけを作る〉働きかけをしていることを話していた。

② 《伝える》：母親は「母乳をやめた方がいいのかなと思って。ちょっとやってみたら、今度は離乳食全然食べなくなったんです」と保健婦に伝え、〈漠然と求める〉ことをしていた。この時のことを母親は「ベテランで優しそうな保健婦さんだったので聞きやすかったです」と〈保健婦をみて話す〉ことをしていた。

③　《捉える》：保健婦は「うん、そう」と答える。相談後のインタビューでは「断乳についてやってみたけどもうまくいかないということで相談にいらしたのかなと思いました」と母親の求めることを〈把握する〉ことをしていた。

④　《探索する》：保健婦は今までの経過や子どもの体重を母子カードから読みとりながら、母乳やミルクの与え方や離乳食の進行状況、どのような断乳方法をしたのかとその時の状況、ミルク以外の飲み物は飲んでいるか、睡眠時間、コップは使っているか、なぜ断乳しようと思ったのかなどを母親に質問したり、母親の表情の観察、子どもの体重増加を確認することをしていた。これは、〈母親と子どもと生活をみる〉ことをしながら〈問題点を探す〉ことをし、保健婦が考える対応策をとれるかどうか〈対応策を探す〉働きかけであった。

⑤　《協力する》：母親は保健婦の質問に答え、〈応答する〉ことをしていた。

⑥　《判断する》：保健婦は相談後のインタビューで「このお母さん、（過去の相談内容から）マニュアル的なものを求めているのかなという感じがしました。断乳してみたけどうまくいかないので、もっと良い1回でうまくいく良い方法がないかなと思って来られて、表情は暗くないのでそれほど深刻に悩んでいるわけでもないなと思いました」と様々な視点から探索したことを〈統合する〉ことをしたり〈見極める〉ことをしていた。また「断乳もそうだけど、私は、育児って本に書いてあるように1回でうまくいく事はないよっていうことを知っておいてもらうと楽かなと思ってるんです」と〈保健婦の思いを込める〉ことをしていた。

⑦　《提供する》：保健婦は「急に進めたのが良くなかったかな」と断乳がうまくいかなかった〈問題を明らかにする〉ことをし、断乳のステップとしてコップの練習をしてみるとうまくいくかもしれないこと、断乳する時の児への関わり方などを説明し、〈方向づける〉ことをしていた。また、保健婦は母親の話を否定せずに耳を傾け、母親の頑張りを認めるなど〈受け入れる〉こと、〈支持する〉働きかけを行っていた。

⑧　《得る》：母親は「無理にやろうとしたのが良くなかったのかな。コップを使ってみます」と、保健婦のアドバイスをもとに、自分で答えを〈見つけ出す〉ことをしていた。

V．考　察

1．ニーズの明確化と充足

以上のように、母親と保健婦の相互作用は母親の求めることと母親に必要なことを中核として展開されていた。【母親の求めることを明確化する】【母親に必要なことを明確化する】【ニーズを充足する】の3局面には、いずれも、求めること、必要なこと、ニーズといった似通った言葉を含んでいる。ここでは、このニーズに関連する言葉について考察する。

ニーズに関して、Bermosk[10]は患者のニーズと看護ニーズを区別しなければならないとしている。患者のニーズは、患者が経験する身体的・情緒的ストレスに関係し生じる。看護ニーズとは、看護婦が患者に必要だと判断するニーズや、患者が当然持っていなければならず、しかもそれについて何か手を打たなければならないと看護婦が考えるようなニーズのことであるとしている。星[11]は健康関連ニーズをウォンツ、デマンド、ニーズに分類している。この分類は、マーケティングの領域で用いられている、欲求、需要、ニーズに相当する。ニーズを充足することができる何物かが製品であり、製品をサービスや援助と考えることができる。ウォンツあるいは欲求には、その中に真に求めること、つまりニーズが隠れており、このニーズは、本人が気づいている場合もあるが気づいていない場合もある[12]。

本研究で明らかになった母親の求めることとはウォンツであり、母親に必要なこととは看護ニーズあるいはニーズに相当する。このニーズをつかむには、包括的に様々な角度からの情報を収集し、判断することが必要であり、それが保健婦の探索という働きかけとして現れていた。また、【ニーズを充足する】は保健婦が判断した看護ニーズに対して援助を提供する局面であり、母親にとっては、保健婦の提供によってウォンツに含まれるニーズも充足されるという意味を持っている。ウォンツが充足されると満足につながることもあるが、実は、ニーズが充足されるからこそ満足に至るのである。本研究で、殆どの相談場面で母親の満足を得ていたのは、ウォンツだけでなくニーズに対応した援助を、保健婦が提供できていたからではないかと考えられる。

2．相互作用から生じる意味

Blumer[13]は「人間集団では、自分自身の行為を形成するに当たってお互いの行為を考慮する。他者に対してはどう行為するべきかを指示し、他者が行った指示を解釈するという二重の過程を通して行う」と述べている。育児相談の場面でも、各局面で母親と保健婦それぞれに解釈や指示の過程が含まれていたと考えられる。つまり、【母親の求めることを明確化する】局面では、母親は保健婦の《引き出す》という働きかけを自分の求めることを伝えてよいというメッセージとして解釈し、自分の求めていることを分かって欲しいという意味を込めて《伝える》ことをする。保健婦は、母親が《伝える》メッセージを母親の求めることとして解釈する。その解釈が《捉える》ということになる。【母親に必要なことを明確化する】局面では、保健婦は《捉える》という解釈をもとに、あるいは保健婦の役割として母親に援助を提供するために、まず《探索する》ことを行う。母親は保健婦の《探索する》という働きかけを、保健婦が適切な回答を

出そうとして調べてくれているというメッセージとして解釈し、探索に《協力する》ことを行う。保健婦は、母親が答えたメッセージから母親にはどのようなことが必要なのかという視点で解釈する。それが《判断する》ということになる。【ニーズを充足する】局面では、保健婦が《判断する》という解釈をもとに《提供する》ことを行う。母親は保健婦の《提供する》ものを《受け取る》ことをし、安心したり対策を見つけ出したりする。このように、メッセージの意味は変化しており、相互作用の過程を通して、母親のニーズを充足しうる意味のあるメッセージを生み出していくことが重要であると考えられる。

3．保健婦の援助

母親の相談後の受けとめは、78場面中74場面で満足が得られていた。これは、母親と保健婦が育児相談という場で、相互作用を通して母親のニーズを満たす意味のあるメッセージをつくり出すことができていたからだと考えられる。高濱[14]の母親の適応過程についての研究では、いくつかの問題が相互に影響し合った結果、特定の問題が表面化するという結果を示している。坂田[15]も、患者の主観的表現の意味を読み取り、それに応える関係をつくることや、その人全体の文脈の中でその人の言葉を理解し、対応していくことの必要性を述べている。清水[16]は母子健康相談での保健婦の関わりについて報告しており、その中で援助の質に影響する因子のひとつとして、単に訴えに対する援助だけでなく利用者のニーズを包括的に捉え援助内容や方法の選択をすることを挙げており、そのことが利用者の満足感につながることを示している。本研究に関しては、包括的にニーズを捉え援助を検討するという点で、清水らの結果と一致しており、このような関わりが対象となった母親の満足につながったと考えることができる。

VI. 結　論

育児相談での母親と保健婦の相互作用は、母親の求めることと母親に必要なことを中核として展開されていた。保健婦は母親が求めることだけでなく、相互作用を行う中で母親が真に必要としていることを判断しニーズを充足させる働きかけを行っており、母親は保健婦との関わりの中で、自分の求めることだけでなく必要なことを見いだされ充足されていた。保健婦の働きかけは、前述したウォンツだけでなくニーズを中心においた働きかけであり、このような関わりあいを持つことが支援的な育児相談につながると考えられた。

謝　辞

ご協力下さいましたお母様方、保健婦の皆様に心より感謝申し上げます。

なお、本稿は1997年度聖路加看護大学看護学研究科に提出した修士論文の一部に加筆修正したものである。また、この一部は第18回看護科学学会学術集会（1998年、北海道）で発表した。

引用文献

1）柳川洋・尾島俊之・坂田清美・高野陽：市町村における母子保健活動の基盤，公衆衛生，60(1)，14－17，1996.

2）佐藤紀子：育児不安と子育て，母子保健情報，34，27－33，1996.

3）Loretta Sue Bermosk・Mary Jane Company: Interviewing in Nursing，1964，松野かほる，新版看護面接の理論，4，医学書院，1983.

4）Kasch, Chris R.: Toward a theory of nursing action: skills and competency in nursing-patient interaction, Nursing Research，35(4)，226，1986.

5）飯田澄美子・金川克子編：保健学講座②地域看護方法論，124－137，メヂカルフレンド社，1997.

6）Katri, Vehvilainen-Julkunen: Client-public health nurse relationships in child health care: a Grounded theory study, Jouanal of Advanced Nursing，17，896－904，1992.

7）Webster-Stratton, Carolyn, Glascock, Jane, McCarthy, Ann Marie: Nurse practitioner-patient interactional analyses during well-child visit, Nursing Reserch, 35(4)，247－249，1986.

8）Morgan, Barbara S.: Nurse-patient interaction in the home setting, Public Health Nursing, 2(2)，159－167，1985.

9）Imai, Keiko Kishi: Communication patterns of health teaching and information recall, Nursing Research, 32(4)，230-235，1983.

10）前掲書3)，97－100.

11）星旦二：健康政策と保健婦活動，保健婦雑誌，1066－1071，1996.

12）Kotler, Philip: Marketing essentials，1984，宮澤永光・十合晄・浦郷義郎，マーケティング・エッセンシャルズ，2－7，東海大学出版会，1986.

13）Blumer, Herbert: Symbolic Interactionism，1969，後藤将之，シンボリック相互作用論－パースペクティブと方法，12，勁草書房，1991.

14）高濱裕子：母親の適応過程についての研究，母性衛生，36(1)，141－150，1995.

15）坂田三允：対人関係と看護，臨牀看護，20(6)，761，1994.

16）清水洋子：地域における母子保健活動に関する研究－民間施設の母子健康相談利用者のニーズと看護職の援助について－，小児保健研究，57(4)，605-611，1998.

—— 英文抄録 ——

Interactions between mothers and public health nurses in child care counseling

Takako Yoshida
(Osaka Prefectural College of Nursing)
Sumiko Iida
(Seirei Christopher College of Nursing)

The objective of this study was to investigate the interactions in child care counseling between mothers and public health nurses. An inductive qualitative study was conducted on 20 mothers and 13 public health nurses in 3 public health centers. Date were collected by participant observation without intervention in counseling sessions and semi-structured interviews after counseling sessions, which were recorded on tape with the consent of the subjects. As a result of analysis, the interactions between mothers and public health nurses were classified into 3 processes: "clarify mother's wants," "clarify mother's needs," and "satisfy mother's needs." "Clarify mother's wants" included three categories of actions: public health nurse draw, mother inform and public health nurse catch. "Clarify mother's needs" had three categories: public health nurse explore, mother cooperate and public health nurse judge. "Satisfy mother's needs" had two categories: public health nurse give and mother get. "Clarify mother's wants" were connected with "clarify mother's needs" by public health nurse catch, and "clarify mother's needs" were connected with "satisfy mother's needs" by public health nurse judge. Public health nurses acted to mothers not only according to mother's wants but also to her needs. Most of the mothers positively evaluated the counseling; therefore public health nurses' actions were considered as helpful to mothers. This study revealed that mother's wants and needs were at the core of interactions between mothers and public health nurses in child care counseling. It is considered important to clarify and satisfy mother's wants and needs in developing interactions between mothers and public health nurses.

Key words
mother public health nurse child care counseling interaction needs